

グローバルな視点をもつ生徒の育成 —単元「香港観光客倍増計画」を通して—

前香港日本人学校香港校中学部教諭

愛知県岡崎市立南中学校教諭 鈴木 基之

キーワード：現地理解、国際交流

1 はじめに

中学1年で生徒が香港の魅力について調べる機会を設定し、生徒自身が香港の魅力に気づき、それを発信する単元を総合的な学習の時間で設定した。この単元に取り組むことで、「香港に来てよかった」という思いを作り、生徒の香港への愛着が生まれるのではと考えた。また、単元の動機付けとして「日本からの香港の観光客を増やす」という目的を設定した。そうすることで、常に日本にはない魅力を探すことになり、日本と比較しながら活動を進めることにつながる。それが、その国独特の文化に気づくことにつながり、他者との違いを理解することができるグローバルの視点を育成することにつながると考えた。

2 授業の実践

(1) 第1時 導入

香港の歴史や文化、史跡などに興味を持つことができるようにするために、「香港クイズ」を行った。その場所、そのものが分かる写真を提示し、それがどこの場所なのか、どのような食べ物なのかを答えるクイズである。問題として、中国寺院として「黄大仙祠（ウォンタイシン寺）」、イベントとして「長洲島饅頭祭り」、観光地として「尖沙咀（チムサーチョイ）」、グルメとして「港式奶茶（香港式ミルクティー）」を出題した。

次に、香港ならではの魅力があることを確認したところで世界観光ランキング（世界観光機関による統計）を提示し、香港への観光客が少しずつではあるが減少している資料を示した。その資料によって、香港の魅力を知らない人が増えてきていることを実感させた。そして、香港の魅力を伝えることが大切であると説明し、伝える方法として「香港ガイドブック」に学年全員で取り組むことを生徒に提案した。完成したガイドブックは、日本の中学生に送付して読んでもらうこと。1人1ページを作成すること。実行委員会を組織して、その実行委員が各グループの中心となって作成することを伝えた。

香港での生活の長い生徒は、紹介する場所や食べ物などを思い浮かべることができた生徒も多く、感想にそのことを多く書いていた。しかし、香港に来て1年目の生徒にとっては生活が始まって3か月ということもあり、戸惑っている生徒もいた。ただ、これを機会に「行ってみたい」と思う生徒もおり、興味を持たせることができた。

(2) 第2・3時 ガイドブック作成の方法を学ぶ

第2・3時では、家庭にある旅行ガイドブックを持ち寄り、それを読み比べることによってガイドブックの構成がどのように読み手を引き付けるものになっているかその工夫を調べる授業を行った。4人グループを作り、そのグループ内でガイドブックを交換し合い、読みあう時間を作った。その際、生徒に共通の視点を持たせるために、それぞれのガイドブックで一番面白いと思ったページを選ぶようにし、そのページを選んだ理由、そのページの題材の選び方、写真の使い方、図の使い方についてワークシートに記述するようにした。

そして、ワークシートの記述が終わったところで、自分が最も面白いと思ったページについて4人グループ内で、題材の選び方、写真の使い方、図の使い方について比較させ、どのような工夫がしてあるのかなど気づいた

ことをグループ内で発表させ、その発表の内容をまとめたことを各グループの代表にクラス全体で発表するようにした。そこから、それぞれの項目ごとに共通することはないかクラス全員で話し合いを行った。

話し合いでは「スイーツのページは女の人が食べたそうなものばかり載っているよ」「面白いページは必ず写真が使われているね」「場所を示すときには簡単な図にすることがあるね」など、各ページが読者の興味を引き付けるために様々な工夫をしていることに、生徒は気づくことができた。

(3) 第4時 実行委員による大見出しの制作

ガイドブック作りをしていく中で、生徒が中心となって構成を考え、活動を進めることができるようにするためにガイドブック実行委員会を組織した。実行委員会は各クラスから希望者を募った。人数は限定せずに、希望者14名をメンバーとし、活動に取り組んだ。全体の構成を考えるために香港にどのような魅力があるのか知る必要があると考えた生徒は、実行委員会内で香港の魅力を出し合った。しかし、実行委員の中には、香港在住期間が4か月と短い生徒もあり、実行委員会ではその魅力を多く見つけることができないと生徒たちは考えた。そこで、各クラスで香港の魅力を提案してもらい、それを資料として全体の構成を考えようということになった。

第4時は実行委員より実行委員会の話し合いの経過が発表され、生徒が考える香港の魅力を発表する時間とした。生徒が考える香港の魅力について、その内容がわかる見出しをつけて発表させた。そうすることで、その題材のどこに一番魅力を感じているか伝えられることができ、それをもとに香港の魅力を仲間分けさせることによって、実行委員がガイドブックを全体の構成を考えることにつながると考えたからである。

生徒にとって魅力のとらえ方が難しいこともあり、生徒からなかなか意見が出てこなかった。しかし、実行委員から「例えば、ここには・・・」などと例を出させることによって、魅力の意味を共通理解させることができ、生徒から意見を出すことができた。

食べ物や観光スポット、交通機関などが意見として生徒から出てきた。そして、その出てきたものに見出しをつける時間を作った。魅力に気づくことができなかつた生徒も、具体的な例を挙げられたことによって考える手掛かりができ、香港の魅力についてとらえることにつながった。

実行委員は、クラスで出た意見を持ち寄り、実行委員会で全体の構成について話し合った。そして、クラスから出た見出しを仲間分けして大見出しを作る作業に入っていた。休み時間のたびに話し合いを重ね、大見出しを実行委員会で作成した。

(4) 第5・6時 グループ分けからの担当決め

大見出しとして、「口の中に広がる香港（スイーツ）」「激うま!!香港来たら絶対食べよう！（食事）」「行って満足！買って満足！（店）」「これで君も香港マスター～激動の香港史～（歴史）」「便利が詰まっている！香港の設備（交通・設備）」「まんじゅう祭にドラゴンボート！香港はイベント盛りだくさん！（イベント）」「人がたくさん！楽しさたくさん！（場所）」「あなたも香港でひょっこりはん～香港をのぞき見しよう～（景色）」「安くてよいものたくさん！お財布にやさしい香港（買い物）」の9つを設定した。明確なジャンル分けをせずに、生徒から出てきた興味のあることをもとに大見出しとした。

その後、大見出しを学年の生徒に紙面で発表し、生徒の希望を取り、それをもとに教員によるグループ分けを行った。各グループには、必ず実行委員が入るようにし、そのグループのリーダーにした。

第5時は、それぞれのグループに配置された実行委員による大見出しの内容を伝えるプレゼンテーションを最初に行い、扱う香港の魅力について共通理解をする時間を作った。そのプレゼンテーションを聞いた後に、その大見出しにあった香港の魅力をグループ内で発表した。しかし、その場で初めて考える機会となったので、たくさんの意見を出すことができなかった。そこで、家庭での調べ学習の時間を設定し、興味のあることを調べてから第6時を行った。そこでは、第5時より多くの意見を出すことができた。そして、その中から同じ中学生が興味をもてるものをグループが取り上げる香港の魅力として選定した。その選定後、グループ内で担当する魅

力を決め、それについて資料を収集してくるように生徒に伝え、第6時を終えた。

(5) 第7・8時 担当ページ内容の話し合い

第7時は、自分が担当するページの内容について資料から選び、自分が所属する大見出しのグループに発表する準備を行った。活動の最初に、担当ページに書く内容を自分の所属する大見出しのグループに発表することを告げ、生徒に活動の見通しをもたせた。そして、生徒が自分で持ってきた資料からワークシートに自分が担当する香港の魅力で思いつくものを書きだすようにした。生徒は、担当する内容から数種類の魅力を資料から見つけ出し、その中から自分が興味をもてるものを選択し、自分が選ぶ香港の魅力としていった。

第8時は、自分が担当するページの内容を自分の所属する大見出しのグループに発表する活動を行った。1人の発表時間を2分以上3分以内とした。制限時間を設けることで、内容に厚みをもたせ、なおかつ精選したものになるようにした。また、さらに自分の考える香港の魅力を具体的に考えて発表することができるようにするために、必ず小見出しをつけて発表するようにした。各グループの実行委員に司会をさせ、時間を測って進めるようにした。発表を聞く生徒には、香港の魅力が伝わっているかどうか、小見出しがその内容にふさわしいものになっているかどうかという視点をもたせて聞くように指示を出した。そして、その発表についてのアドバイスを書いて渡せるようにするために、生徒1人ずつにグループ人数分の付箋を渡し、それにコメントを書くようにした。

生徒たちは、前時で調べまとめたことをもとに、1人ずつ発表した。2分以上としたことで発表内容には厚みがあったが、3分以内にまとめきれず発表を途中で終えた生徒もいた。付箋を使ったことで、生徒にアドバイスを書く必然性が生まれ、とても意欲的に発表を聞くことができた。また、発表者も自分の発表したことに対する反応がすぐに言葉として返ってくるので、発表に満足感を与えることにつながった。

全員の発表が終わったところで、内容と小見出しとの関連について検討会を行った。その中で、自分の小見出しに自信がもてない生徒や自分の言葉で書くことができなかった生徒には、グループからのアドバイスや新しい小見出しの提案などをしてもらうことができた。そのため、グループ一人ひとりの内容、小見出しが決定して発表会を終えることができた。

(6) 第9時から12時 担当ページの制作

第9時から自分の担当ページの制作を行った。ページ作成については、次のようなルールを設定した。①ワードで作成すること②1人1ページ以内にする③写真や資料など添付してもよいがレイアウトの50%以内にする④題字や項目のフォントは自由とするが、本文のフォントは統一する 以上4点をルールとした。また、作成上の注意点としてつぎのようなものを挙げた。

- ① インターネット上の写真の添付の禁止 (写真・資料についてはⅠ自分で写真を撮るⅡ自分でイラストを描くⅢ著作権フリーサイトより引用)
- ② 本、インターネット上の資料の参照先の明記
- ③ 引用先のもをそのまま写すのではなく、読み手(中学生)に合わせた文章にする。

以上3点を注意事項として確認し、活動に入った。

ガイドブックの秘密について調べた生徒にとって写真などの視覚的な資料は、読み手に伝えるためには欠かせないものであるため、自分でその場所まで出かけ、撮影をし、自分の資料としている生徒が多数いた。そして、撮影してきた写真やインターネットや現地ですぐ得た情報を使って、ページ作成に取り組んだ。

(7) 第13時から19時 中文大学生との交流

香港日本人学校の1年生は毎年、香港中文大学日本研究学科の学生と交流活動を行っている。そこで、香港ガイドブックの作成について、香港に暮らす大学生からページについてアドバイスをもらう機会として、この交流活動を位置付けた。

生徒は、まず個人ページの発表の準備を行った。大見出しの説明についての発表時間を考え、個人ページの発

表時間を2分以内と設定していた。そこで、ワークシートの原稿用紙をどこまで書けばよいかをグループ内で話し合いながら進めていった。その後、大見出しの説明についてグループで話し合い、実行委員を中心にその原稿を作成していった。

第17時は、中文大学交流会で行う発表のリハーサルを行った。2部制の発表にしたことから同じ大見出しのグループ内に小グループが2つあり、その発表を聞き合うという形をとった。やり方は発表会と同じやり方とし、9分間で行うようにした。そして、その発表が終わった後に、意見交換を行う時間を設定し、お互いの発表に対してアドバイスをもらうことができたようにした。

生徒は、大見出しの発表方法をグループごとに工夫していた。クイズ形式や簡単な寸劇を取り入れ、聴衆を引き付けることができるようにしていた。個人ページの発表では、2分以内に発表を終えることが難しい生徒が多く、それを改善点としてアドバイスをもらうことが多かった。また、逆に話す内容が少ない生徒もおり、もっと具体的に説明するべきというアドバイスをもらう生徒もおり、発表会に向けてそれぞれが自分の課題を気付くことができた1時間となった。

第18・19時は、中文大学生を招き、ガイドブックの発表会を行った。生徒は、リハーサルでの反省を生かし、時間内に発表を終えることができた。また、工夫していた大見出しの発表では聴衆の反応もよく、とても満足げだった。発表会終了後、大学生からアドバイスをもらう時間を設定した。パソコン製品が安く買える場所を魅力にしていた生徒の発表には、大学生から「もっと安く買える場所もあるよ」などローカルな情報を得ることができた生徒もいた。また、日本人からは魅力に見えるものでも香港の人にとっては生活の1部であることから魅力だと気づいていないこともあり、生徒、大学生ともに新しい視点に気づくことができた場面もあった。



中文大学生との交流会

(8) 第20時・事後 ページ見直しと香港観光局の協力

第20時は、大学生のアドバイスを生かすため、ページの誤字脱字の最終確認をするためにグループでそれぞれの原稿の回し読みを行った。そして、自分の原稿が返ってきたら、中文大学生のアドバイスをもとに、内容の加筆・修正を行った。

生徒たちには完成した香港ガイドブックを印刷して冊子として、全員に渡した。また、生徒の活動の成果を目に見える形にしたいと考え、香港政府観光局に中学生のためのガイドブック作成を行ったことを伝え、生徒の作成したページを送付した。その結果、香港政府観光局が製作する教育旅行を案内する刊行物に生徒のページを採用してもらえることになり、それがホームページでも閲覧できるようにしてくれた。生徒たちにそのことを伝えると、とても喜んでいった。

そして、日本の中学生にもガイドブックを送付し、感想をもらい、生徒に伝えた。生徒からは「やってよかったね」と話している姿を見かけることができた。

夜景を上から見るか？

香港といえば夜景！といえるほど、香港の夜景はとても有名です。
このページでは上から見る夜景、100万ドルの夜景と呼ばれるヴィクトリアピークを紹介し、その夜景とは一体どのようなものなのでしょうか？

1. 写真スポット&見るスポット

○スカイテラス428
高さ428m、360度の景色が広がる香港で最も高い展望台。
スカイテラス428から見える夜景は、息をのむほどの絶景。
・日本語の音声案内とヘッドフォンがもらえる。
・水に照らされる下の方も見える。
・有料(成人:HKD52)
○スカイテラス428の写真スポット
ハートの形のコアがある！夜景をバックに写真を撮ろう！
ハートの中の青い雲の雲海は「ヴィクトリアピークで愛を叫ぶ」
○獅子亭展望台
・展望台のすぐ下はドクトラムの道路で、トラムを見ながら夜景も見られる。

2. 行き方

○ドクトラム
世界で古い歴史を持つ乗り物の一つである。右には高層ビル群が、左には緑豊かな景色があり、赤い思い出ができる。しかし、結構人気なので混雑になる場合が多い。
○徒歩
ルート1: 香港動物公園を突っ切るコース
ルート2: トラムの横を上っていくコース
○その他
タクシー、バス、ミニバスなど...

香港にまたら絶対行くべき観光地の一つであるヴィクトリアピーク。行って損はないです！見る場所が一つではなく、二つ三つあり昼と夜で見られる姿も違うので一日中楽しめます。建物の一つ一つ形状がはっきりと認識できるのも特徴の一つです。みなさんもぜひ100万ドルの夜景を見に行ってみてください！

香港政府観光客に採用されたページ

3 おわりに

香港で生活している中学生全員が、香港に来ることを望んでいるわけでない。その中で、「香港に来てよかった」と思うことができる機会を設定することが大切であると実感した。その機会が、香港を好きになるきっかけとなり、愛着へと変わっていく。その愛着が香港で生活したことが生徒にとって大きな財産となり、その後の人生にも大きな影響を与えるであろう。そして、グローバルな視点を持ち、世界で活躍する人材となっていくことを願っている。